日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の２　TEL &FAX　52-3097　2010年12月5日（日）第1391号(1)

民報 ゆうばり

安心の高齢者下宿実現！

住民運動の成果「共同住宅」清光園で

「シルバー共同住宅」来春オープン！

国立社会保障人口問題研究所の推計によると本年75歳以上の人口は、1422万人から2025年には2167万人（1・5倍）になると予測しています。

夕張市は高齢者人口比率で全国一になっているなか、国交省の第２回選定で、計画を申請していた夕張市の社会福祉法人清光園に高齢者専用賃貸住宅建設への補助が決定され、通知されました。

これまで高齢者向け「共同住宅」建設を求めてきた熊谷桂子前市議が清光園を訪れ、岡崎光雄理事長、鳴海重雄施設長の両氏から計画内容についてお話をおうかがいました。

計画では、市から南清水沢の市営住宅（築50年）の無償譲渡を受け、３棟18戸に改造するというものです。

またこの共同住宅は、隣接して建設予定のデイサービス施設を、朝夕の食事や入浴に利用します。

入居費は、家賃・食費・管理費などを含めて月９万6000円（冬季10万2500円）の予定で、来春オープンをめざしています。

11月26日　清光園を訪問し、岡崎、鳴海両氏からお話をうかがう。

現地予定地を指す熊谷さん

暮らしはいまどうですか？

「保険料が高くて払えない」「病気なのに病院にかかれない」「子どもが保育所に入れない」など、悲鳴のようなたくさん声が、私たち日本共産党のところに届いています。

日本共産党は、子どもやお年寄りが安心して暮らせる北海道をつくるため、いま署名に取り組んでいます。

ひとつは、**「子ども署名」**です。子どもの通院医療費は、みなさんの願いが実り、現在、就学前まで助成（72市町村で）されていますが、これを小学卒業までにさせましょう。

また、子どもたちが豊かにのびやかに成長できるよう、小中学校での30人学級の実現や、保育所の増設、保育料の引き下げなど、若いお父さんお母さんが、安心して子育てができる環境をつくりましょう。

もうひとつは、**「いきいき署名」**です。高い国保料が払えず病院にかかれない人がどんどん増えています。10年前には12億円あった国保への道の補助金も４年前からゼロになっています。この道の補助金を復活させ、子どもも お年寄りも安心して病院にかかれる社会にしていきましょう。

また、介護保険料・利用料の軽減と特別養護老人ホームやグループホームを新設し、「長生きして良かった」と言える北海道をつくりましょう。

取り組んでいます！

「子ども署名」
「いきいき署名」

署名にご協力ください！

子どもとお年寄りが笑ってくらせる社会、誰もが安心してくらせる社会・北海道をつくるため、二つの署名にご協力をお願いします。

＊日本共産党夕張市委員会　e－メール　jcp.yubari@gmail.com　HP　http://pub.ne.jp/jcpyubari/　もぜひご覧ください。

社会人としての第一歩を 希望に輝くものに

就職試験開始

新規高卒就職試験・採用内定開始にあたり、「超氷河期」と言われた今春以上に厳しい就職戦線の状況が報じられています。

8月25日に北海道労働局が発表した「平成23年3月新規高等学校卒業者の求職・求人状況」（7月末現在）では、道内の就職希望者数は9260人と集計され、これに対して求人は2448人、有効求人倍率0.26という深刻な状況が浮き彫りになりました。

これに加え、今春3月に高校を卒業したが就職できなかった「未就職者」は2188人を数え、このうち6月末までに正規雇用で就職できた若者は257人に過ぎません。半数の1000人以上は「非正規」であり、「何もしていない」という回答も545人を数えたという道の調査も発表されています。（8／17）

「若年層の雇用状況は厳しく、完全失業率は平成22年6月に過去最高となる11.1%に上昇。学卒未就職者が6月になっても減少せず高水準」（8月27日、総務省）、「1年以上の長期にわたる失業が増加」（同）と、雇用をめぐってはきびしい報道の連続です。

市内高校生の就職状況は、就職希望者20名中、内定は8名という現状です。

その内、市内に就職が内定した生徒は、4名です。現在、市役所の採用試験を受験予定の生徒も1名います。厳しい就職状況ですが、夕張の高校生は頑張っています。

就業対策の拡充を 道に申し入れ 熊谷桂子前市議が参加

共産党道委員会は10月27日道交渉において就業対策を申し入れました。

①今春卒業生の未定者を放置せず、緊急の臨時対策をとること

②来春の就職希望者に対して、秋田県、宮城県のように、運転免許取得補助等を実施すること

③就職希望者のいる全高校に1名以上の進路相談員を配置すること

④希望する商工会・会議所に就職開拓員を配置すること――など、有効な対策を確立することを求めました。

熊谷桂子前市議も参加し、夕張の実情を訴え「特に地元で働きたいという若者を大切にしてこそ夕張の再生が可能になる」と強調しました。

いっせい地方選挙勝利へ

南空知で総決起

11月27日(土)岩見沢文化センターに於いて、来年春のいっせい地方選挙で南空知の住民とってかけがえのない共産党の10名の候補者(現7・元1名・新2名)全員の当選めざして総決起集会が開催されました。夕張からは、熊谷桂子前市議と筒井勇治夕張総合後援会会長が力強く決意表明しました。

南空知総決起集会

くまがい桂子の 市民とともに歩んだ4年間

日本共産党 前夕張市議 熊谷桂子

この3年半の間、バッジのない議員として、また、一市民として、住民自治で夕張再生を図るために住民運動に力を入れてきました。

ゆうばり再生市民会議では、一人暮らしのお年寄りの孤独死を防ぎたいと、みんなで知恵を出し合い、救急情報を容器に入れた『命のバトン』の普及のために紙芝居を作り、500本のモニターを実施し、再生計画にも取り入れるよう提言したことが採用され、市から委託を受けた社会福祉協議会が、普及を進めています。

また、再生会議の中でも要望し、機会あるごとに訴えてきた「低所得者でも入れる高齢者下宿」が、この春には完成することになったのも大きな収穫でした。

さらにすべての議員にお願いしても協力してもらえなかった、妊産婦検診の1回無料化を、新婦人の対市交渉で実現させることができました。

中でも一番の大きな運動は、住民とともに「夕張メロンと夕張川を守る市民ネットワーク」を組織し、市内で5000筆、全道で3000筆を集め、長沼・栗山・南幌・由仁の共産党議員とも連携し、それぞれの町の町長や農協組合長を巻き込みながら、大きな運動に発展させ、様々な運動をする中で産業廃棄物処分場の計画を撤回させたことでした。

党内では全市民アンケートに取り組み、生活相談や今後の市長要請などに生かしていきます。

「議会にはやはり共産党議員がいなければだめだ、住民の声が届かない！」という声が大きく広がっています。

4ヶ月後の統一地方選挙、暮らしを守る砦の共産党の議席を、道議会でも夕張市議会でも、しっかりと確保できるよう全力で立ち向かう決意です。

（11月27日決起集会でのあいさつより）

＊日本共産党夕張市委員会URL　http://pub.ne.jp/jcpyubari/　前市議くまがい桂子URL　http://www.kumagai-keiko.net/　もぜひご覧ください。